

7 19-1953



日本組織培養学会

会員通信 第89号

平成8年6月30日

発行責任者

※三井洋司(工技院 生命研)

星 宏良(機能性ペプチド研)

※〒305 つくば市東1-1

電話 0298-54-6070

FAX 0298-54-6095

§ 1996年度秋季公開シンポジウム予告

シンポジウム : 発生・生殖工学の最近の進歩と話題
タイトル -基礎から産業・医療への応用まで-

日時(予定) : 1996年12月6日(金)
・午前9時から午後5時位まで
・シンポジウム後1-2時間の懇親会を予定

場所(予定) : 横浜アーバンカレッジ
・横浜市大の所有するセミナー室です。(小山先生、梅田先生のご尽力で手配いただきました)
横浜駅より徒歩10分
・懇親会もここで行う予定(1-2時間)



主旨 : 組織培養を研究の対象、あるいは手段としている学会員の方々に
とって密接に関連ある研究分野の一つに発生・生殖を扱う細胞工学あるいは遺伝子工学
の技術(ここでは発生・生殖工学とまとめて呼ぶ)とその研究の展開があると思われます。

この研究分野は遺伝子導入技術、染色体操作技術、細胞培養技術など多彩な技術を
集大成して、近年急速に進展してきた学際的な研究領域です。トランスジェニック技術
と遺伝子ターゲティング技術の進歩は目覚ましく、疾患遺伝子のみならず、発生、免疫、
癌、の発見競争にこれらの技術が組み合わされ、これらに関する研究がNature, Science,
Cellなどの一流雑誌をいつも賑わしていることはご存じのことと思われます。

第一線の研究者の方々にこの分野の最近の進歩状況を余すところなく、ご講演願
いたいと考えています。学会員の皆様、特にこれからの研究に着手されようとしている若
い方々、学会のみならず、産業界の研究者の方々、研究の明日の糧を探しに是非ご参集
下さい。もちろん、学会員以外の方も大歓迎です。乞うご期待!

講演を引き受けていただいた演者の方々は以下の11名です(以下アイウエオ順)

小川知子(遺伝子研・細胞遺伝学部)、勝木元也(東大・医科研)、要 匡(熊大医・

遺伝発生)、権藤洋一(東海大.総合医学研)、里方一郎(新潟大医・小児科)、能美健彦(国立衛生試験所・変異遺伝部)、平林真澄(ワイエスニューテクノロジー研)、星 宏良(機能性ペプチド研)、松居靖久(東北大・加齢医学研・分子発生)、八木健(岡崎生理高次神経機構)、浦野浩司(実験動物中央研)、山本 慧(慶大医・薬理)

世話人 : 日本たばこ・生命科学研 西 義介
共同世話人 : 横浜市大・木原生物研 小山秀機

§ 日本組織培養学会平成8年度第1回幹事会議事録

日時:平成8年5月14日(火) 16時~18時

場所:広島厚生年金会館(広島市)

出席者:蔵本博行(前会長)、難波正義(新会長兼現幹事)、大野忠夫(兼細胞バンク委員会委員長)、宮崎正博、渡辺 純、佐藤靖史(以上旧幹事)、三井洋司、植田政嗣(以上現幹事)、安部まゆみ、鈴木崇彦(以上新幹事)、小山秀機(細胞工学委員会委員長)、星 宏良(編集委員会委員長)、沖垣 達(研究教育システム委員会委員長)、井出利憲(第69回大会会長)

欠席者:伊藤まり(現幹事)

I. 報告事項

1. 会長報告(蔵本博行前会長)

- 1) 平成7年度日本組織培養学会第68回大会は長崎県長崎市(渡辺正己世話人)で平成7年5月17日(水)~19日(金)に開催された。
- 2) 平成7年度日本組織培養学会秋季国際シンポジウムは東京都(蔵本博行世話人)で平成7年11月20日(月)~22日(水)に開催された。この発表内容は "In Vitro Biology of Sex Steroid Hormone Action" のタイトルで単行本としてChurchill Livingstone Japanよりまもなく発刊される予定である。
- 3) 平成7年度細胞工学シンポジウムは東京都(小山秀機世話人)で平成8年1月16日(火)に開催された。
- 4) 平成9年度日本組織培養学会第70回大会世話人は小山秀機先生(横浜市立大学木原研究所)に依頼し承諾を得ている。
- 5) 平成7年度新会長ならびに幹事選挙は、選挙管理委員会の下で予定通り完了した。
- 6) 本年度に、米国 Society of In Vitro Bilology (SIVB) が開催する国際会議のシンポジストとして、難波正義新会長が参加する予定である。なお、日本組織培養学会(JTCA)も正式に参加することになっている。

7) 学術協力財団への協賛金として本年度分5万円を支出した。

2. 庶務報告 (植田政嗣庶務幹事)

1) 新入会希望者、退会者報告 (平成7年12月～平成8年5月)

新入会希望者：正会員6名

退会者：正会員25名 (うち2名は逝去)

現会員数：正会員685名 (国内659、海外26)、賛助会員47社

2) 平成8年度日本組織培養学会学会事務に関し、前年度同様に(財)日本学会事務センターと業務契約を締結した。

3) 日本電子顕微鏡学会より「第7回電顕サマースクール1996」、文部省学術情報センターより「学術情報センターサービス」に関する資料の会告掲載依頼があり、会員通信幹事に伝達した。

4) (財)日本医薬情報センター図書館より会誌送付の依頼があり、学会事務センターより今年度大会抄録号を2部送付した。

5) 日本学術会議第17期会員の選出に係わる学術研究団体の登録業務に関し、学術研究団体登録申請書ならびに役員カード等の必要書類を平成8年5月31日までに日本学術会議会員推薦委員会へ送付する予定である。

3. 平成7年度選挙管理委員会報告 (植田政嗣選挙管理委員)

1) 平成7年度役員(次期会長および平成8年度以降新幹事)選挙に関し、蔵本前会長に選挙管理委員を委託され、会員通信第70号に記載された新規定により選挙を実施した。

2) 標記の件に関し、平成8年4月9日、理化学研究所実験動物室室長、日下部守昭氏の立会いの下に、厳正なる開票を行った結果、当選者は以下のようになった。

新会長： 難波正義 (岡山大学)

新幹事：【40歳以上】	平成8～9年度	小山秀機	(横浜市立大学)
		星 宏良	(機能性ペプチド 研究所)
【40歳未満】	平成9～10年度	岡本哲治	(広島大学)
		宮崎耕治	(佐賀医科大学)
【40歳未満】	平成8～9年度	安部まゆみ	(東北大学)
		鈴木崇彦	(東京大学)
【40歳未満】	平成9～10年度	古江美保	(神奈川歯科大学)
		高橋君子	(東京医科大学)

- 3) 新会長および新幹事に選挙結果を伝達し、全員から役員受諾の返答を得た。
- 4) 開票結果の詳細については、会員への公示のため会員通信幹事に伝達した。
- 5) 高橋君子先生は、平成8年7月1日より平成9年6月30日まで海外に留学予定のため、帰国次第幹事業務に着任頂く旨答申し、了解を得た。

4. 会計報告（宮崎正博会計幹事）

1) 平成7年度収入報告

正会員会費および広告収入はやや減額したが、賛助会員会費は予算案通り納入された。雑収入の内訳は、学会誌および別冊等によるものである。

2) 平成7年度支出報告

研究誌の発行ならびに発送費、通信費が大幅に減少した。

3) 平成8年度予算報告

平成7年度の予算を基本にして予算案を作成した。前年度の状況を考慮し、研究誌発行費は450万円に減額した。なお、特別会計の寄付金収入として、平成7年度秋季国際シンポジウムにおける余剰金300万円を蔵本博行世話人より受領した。

（詳細は会計報告の項）

5. 奨励賞選考報告（渡辺 純奨励賞選考幹事）

1) 平成7年度日本組織培養学会学術奨励賞は、前回幹事会において、川島邦裕先生（岡山大学）に決定した。

2) 平成8年度も、会員に積極的に募集していく予定である。

6. 会員通信報告（佐藤靖史会員通信幹事）

1) 平成7年度も年4回の会員通信（第85～88号）を発行した。

2) 会員投書欄を新たに設けた結果、2件の投稿があった。今後も内容の充実をはかる目的で、会員よりの寄稿を積極的にお願いしていく。

7. 各種委員会報告

1) 編集委員会報告（星 宏良委員長）

(1)平成7年度は「組織培養研究」4巻を発行した。

(2)平成7年度の掲載原稿は14編であった。この中で、原著や英文論文の占める割合が増加しており良い傾向と思われる。

(3)投稿論文が少ないので、学術集会のシンポジストやオーガナイザーに積極的に投稿をお願いしていく。

- (4)編集事務局は、「組織培養研究」第15巻第1号より、広島大学、岡本哲治先生に移行した。
- (5)今後投稿論文を増やすためには、「組織培養研究」をMEDLINEに載せる必要があり、現在その手続きを進行中である。

2) 細胞バンク委員会報告 (大野忠夫委員長)

- (1)平成6年度よりの時限委員会である第4次細胞バンク委員会は本年度で終了となるため、第5次細胞バンク委員会の設置を申請したい。
- (2)第4次細胞バンク委員会では第3次に引き続き、国内における培養細胞の保存・供給体制の整備、細胞株の所有権および使用上の倫理的問題、細胞株に関する情報システムの整備、細胞株同定法ならびに汚染微生物・ウイルス検出法の検討等を主な活動内容としてきた。
- (3)研究者相互の情報交換をより活発にするため、インターネットを活用し本学会独自のホームページの開設を目指している。

3) 細胞工学委員会報告 (小山秀機委員長)

- (1)平成7年度細胞工学シンポジウム「細胞外マトリックス接着シグナルによる細胞機能の制御とその医療応用への展開」は、平成8年1月16日(火)に開催された。
- (2)平成8年4月24日に細胞工学委員会を開催した。その際、新委員長が増井徹先生に決定した。
- (3)平成8年度の細胞工学シンポジウムは次期学術集会と合同で開催する予定である。

4) 研究教育システム委員会報告 (沖垣 達委員長)

- (1)日本組織培養学会編「組織培養の技術 第3版」は、基礎編280ページ、応用編390ページで朝倉書店より刊行された。印税中2%を本学会に上納する。
- (2)日本組織培養学会編「細胞成長因子 Part III」の編集作業に関しては、現在内容の再検討中である。
- (3)第6回国際細胞生物学会および第36回全米細胞生物学会は、合同で1996年12月7日～11日にサンフランシスコで開催される予定である。
- (4)第3回アジア・太平洋細胞生物学会は1998年8月24日～28日に、大阪千里ライフサイエンスセンターで開催される予定である。日本国内の研究者に積極的に参加を呼びかけていきたい。

II. 協議事項

1. 新入会者承認の件

新入会希望者6名の入会が承認された。

2. 名誉会員について

蔵本前会長より米国 Mount Sinai School of Medicine Dr. Erlio Grupide を名誉会員に推薦したい旨提案があり、全会一致で承認された。

3. 第71回(1998)大会世話人の件

難波正義新会長より、東北大学加齢医学研究所の佐藤靖史先生が推薦され、全会一致で承認された。

4. 新幹事役割分担の件

難波正義新会長より、以下の如く役割分担が提案され承認された。

小山秀機新幹事：庶務幹事，研究教育システム委員会担当幹事

星 宏良新幹事：会員通信幹事，細胞バンク委員会担当幹事

安部まゆみ新幹事：会計幹事

鈴木崇彦新幹事：奨励賞選考幹事，編集委員会担当幹事

三井洋司現幹事：細胞工学委員会担当幹事，会員通信幹事

植田政嗣現幹事：倫理委員会担当幹事

なお、各委員会はそのまま存続されることになった。これに伴い、星 宏良幹事が編集委員会委員長を兼任されること、および大野忠夫先生が細胞バンク委員会、増井徹先生が細胞工学委員会、沖垣 達先生が研究教育システム委員会の各委員長を担当されることが決定した。また、今年度より細胞バンク委員会の下に小委員会として存在した倫理委員会を独立させることになった。同委員会の委員長は倫理委員の互選にて今後決定する予定である。

5. 学会名称変更の件

蔵本前会長から、本学会会員に標記の件に関し、アンケート調査が行われた。その結果学会名称の変更には賛否両論があり、学会の在り方も含めて、この問題は難波新会長をはじめとする新役員に委ねられることになった。

6. その他

1) 「組織培養の技術 第3版」の他学会への献本については、朝倉書店と協議の上決定する。

2) 会長任期については、現状では4年間であるが、今後短縮することも考慮する。

3) 学会活性化の一環として、インターネットを活用したホームページの開設が

急務であるが、これは細胞バンク委員会内にまず設置し、後日学会全体の窓口として活用できるよう推進する。

- 4) 本学会の年会費の銀行よりの自動引き落とし制度に関しては、現状維持とし、来年度よりあらためて検討する。

§ 日本組織培養学会平成8年度総会議事

日時：平成8年5月16日（金） 11時30分～12時30分

場所：広島厚生年金会館

司会：小山秀機幹事 議長：井出利憲大会会長

総会次第

1. 新旧会長挨拶
2. 庶務報告（植田庶務幹事）
3. 平成7年度選挙管理委員会報告（植田庶務幹事）
新幹事役割分担報告（同上）
4. 機関誌編集委員の選任（小山庶務幹事）
機関誌編集事務局委員の選任（同上）
5. 平成7年度会計報告（宮崎会計幹事）
6. 平成8年度予算（同上）
7. 会員通信報告（三井会員通信幹事）
8. 各種委員会報告
 - 1) 編集委員会報告（星委員長）
 - 2) 細胞バンク委員会報告（大野委員長）
 - 3) 細胞工学委員会報告（小山委員長）
 - 4) 研究教育システム委員会報告（沖垣委員長）
9. 名誉会員推薦の件（蔵本前会長）
10. 平成7年度学術奨励賞選考報告（渡辺選考幹事）

授賞式および受賞者挨拶

- 1 1. 平成8年度秋季シンポジウム世話人挨拶（西 世話人）
- 1 2. 第70回（平成9年）大会世話人挨拶（小山次期大会会長）
- 1 3. その他
 - 1) 学会名称変更の件（蔵本前会長）
 - 2) インターネットの活用について（大野委員長）

§ 奨励賞応募

締め切り期限は9月30日です。詳細は、本会員通信の最後に記載しております。

§ 平成7年度収支決算および平成8年度予算について

平成7年度決算書と平成8年度予算書を掲載致します。これらの決算書および予算書は本年度の第69回大会（広島）の総会で承認を受けました。尚、平成7年度の決算書につきましては沖垣 達（重井医学研）、黒木登志夫（昭和大）両会計監査役の監査を受け、同書の内容が正当であることの確認と証明を受けましたことを申し添えます。

1) 平成7年度決算について

1. 一般会計収入の部では、会員数の低下のため、正会員会費は予算を6.6%下回りました。賛助会員数も減少していますが、会費納入率が良かったので、逆に予算および昨年度の実績（183万円）を上回りました。また、入会金は予算に対してはマイナスでしたが、入会者が増えたため、昨年度実績（14,000円）と比べて倍増しています。雑収入の内訳は、利息収入（19,739円）、学会誌頒布収入（153,000円）、別刷収入（111,800円）となっております。

2. 一般会計支出の部では、全般的に予算を下回る支出となりました。予算を上回りましたのは、会員通信発行費と雑費の2つの勘定科目でした。雑費の内訳は、中間報告書（「組織・細胞培養におけるヒト組織・細胞の取扱について」）印刷費（103,000円）および選挙関係印刷費（100,940円）などとなっています。

3. 平成7年度一般会計は単年度で69万円の赤字予算を組んでおりましたところ、収入実績は予算に対して91.2%と8.8%も下回りました。しかし、支出も予算に対して82.9%の執行でしたので、結果的には19万円某の黒字となり、次年度繰越金も250万円を越えました。

4. 特別会計の収入は全般的に予算を下回り、昨年度に引き続き予算執行率は52%

でした。尚、雑収入はJICST（日本科学技術情報センター）の許諾抄録料です。

5. 特別会計の支出は、ほぼ予算通りの支出となりました。

6. 特別会計の収支は平成5年度迄バランスがとれていましたが、昨年度より収入が悪化し、収入の2倍の支出がある状態です。今後、支出（特別会計事業）が現況のままで、収入が50～60万円台（平成6・7年度実績）という状況が続きますと、この先、学会の資産（次年度繰越金）の先細りが懸念されます。

2) 平成8年度予算について

1. 一般会計収入は全般的に例年通りに設定しましたが、「正会員会費」と「広告収入」につきましては平成7年度実績を参考にして低めに策定致しました。今年度の収入予算額は昨年度に比べ100万円少額になっていますが、実際には昨年度収入決算額から「名簿作成積立金取崩収入（30万円）」を差し引いたものより10万円某上乘せした額となっております。

2. 一般会計支出につきましては、平成7年度実績と広告収入の減少に対応して「研究誌発行費」を50万円減額しました。その他は昨年度並みの予算を策定致しました。また、平成7年度より予算計上を取り止めましたIACC関係費につきましては、勘定科目よりはりました。尚、今回の名簿作成に備え、「名簿作成積立金」を一昨年度並に計上致しました。

3. 一般会計に関しましては、平成7年度実績に準じた予算を策定しましたが、単年度では89万円の赤字予算となっています。しかし、平成8年度の支出が平成7年度並みであれば、収支はとんとん（約2万円程度の黒字）ということになり、次年度繰越金も200万円台を維持できると思われれます。

4. 特別会計の収入の部では、平成7年度秋期シンポジウム（国際シンポジウム）の世話人（蔵本博行前会長）より余剰金（300万円）の寄付申請があり、幹事会および本年度の総会で承認されました。従いまして、本年度の寄付金収入は、平成7年度より300万円アップで350万円となっています。尚、本寄付金は申請者のご希望に沿って国際学術交流基金として活用していくことが幹事会および本年度の総会で承認されました。利子収入は平成7年度決算を参考に減額して策定致しました。昨年度、出版収益はゼロでしたが、今後、まだ入る見込みがありますので昨年度の予算額に準じました。その他の勘定科目については、昨年度並みに計上しております。

5. 特別会計の支出に関しましては、細胞バンク委員会の大野忠夫委員長より、平成7年度からの繰越金があるので5万円減額して25万円を細胞バンク委員会費として計上して欲しいとの申し出があり、幹事会で承認されました。その他は昨年度と同様に策定致しました。

6. 特別会計に関しましては、ここ2～3年、支出額が固定化されている割には、収入が減少傾向にあるため、次年度繰越金を食い潰していく傾向にあり、将来か懸念されておりました。しかし、本年度は300万円の寄付金収入が見込まれ、単年度で271万円の黒字が予想されます。尚、特別会計収支のバランス、（増収への方策、支出など）については、今後、幹事会で詳細を検討することになりました。

会計幹事 宮崎正博

日本組織培養学会
平成7年度決算
(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

一般会計

収入の部

勘定科目	平成7年度予算額	平成7年度決算額	摘 要
正会員会費	3,700,000 円	3,454,100 円	
賛助会員会費	2,000,000	2,010,000	
入会金	50,000	30,000	
広告収入	3,000,000	2,445,553	
名簿作成積立金			
取崩収入	300,000	300,000	
雑収入	300,000	284,539	
小計	9,350,000	8,524,192	
前年度繰越金	2,378,923	2,378,923	
合計	11,728,923	10,903,115	

支出の部

勘定科目	平成7年度予算額	平成7年度決算額	摘 要
研究誌発行費	5,000,000 円	4,224,576 円	
会員通信発行費	400,000	410,661	
大会補助金	400,000	400,000	
秋季シンポジウム 補助金	300,000	300,000	
IACC加盟費	0	0	
同事務費	0	0	
業務委託費	1,400,000	1,160,155	
研究誌発送費	850,000	689,000	
事務通信費	500,000	300,144	
会員名簿作成費	600,000	435,896	
名簿作成積立金	0	0	
幹事会議費	300,000	85,940	
編集会議費	200,000	90,750	
雑費	60,000	234,221	
予備費	30,000	0	
小計	10,040,000	8,331,343	
次年度繰越金	1,688,923	2,571,772	
合計	11,728,923	10,903,115	

特別会計

収入の部

勘定科目	平成7年度予算額	平成7年度決算額	摘要
寄付金収入	500,000 円	460,472 円	合同酒精より
出版収益	300,000	0	
利子収入	200,000	64,609	
雑収入	10,000	5,356	
小計	1,010,000	530,437	
前年度繰越金	8,694,610	8,694,610	
合計	9,704,610	9,225,047	

支出の部

勘定科目	平成7年度予算額	平成7年度決算額	摘要
外国人招待費	200,000 円	200,000 円	
学会奨励費	300,000	300,000	
細胞バンク委員会	300,000	300,000	
倫理小委員会	100,000	100,000	
細胞工学委員会	200,000	200,000	
教育システム委員会	100,000	100,000	
雑費	50,000	21,612	
小計	1,250,000	1,221,612	
次年度繰越金	8,454,610	8,003,435	
合計	9,704,610	9,225,047	

日本組織培養学会
平成8年度予算
 (平成8年4月1日～平成9年3月31日)

一般会社

収入の部

勘定科目	平成8年度予算額	平成7年度予算額	平成7年度決算額
正会員会費	3,500,000 円	3,700,000 円	3,454,100 円
貸助会員会費	2,000,000	2,000,000	2,010,000
人会金	50,000	50,000	30,000
広告収入	2,500,000	3,000,000	2,445,553
名簿作成積立金			
取崩収入	0	300,000	300,000
雑収入	300,000	300,000	284,539
小計	8,350,000	9,350,000	8,524,192
前年度繰越金	2,571,772	2,378,923	2,378,923
合計	10,921,772	11,728,923	10,903,115

支出の部

勘定科目	平成8年度予算額	平成7年度予算額	平成7年度決算額
研究誌発行費	4,500,000 円	5,000,000 円	4,224,576 円
会員通信発行費	400,000	400,000	410,661
大会補助	400,000	400,000	400,000
秋季シンポジウム			
補助金	300,000	300,000	300,000
業務委託	1,400,000	1,400,000	1,160,155
研究誌発送費	850,000	850,000	689,000
事務通信費	500,000	500,000	300,144
会員名簿作成費	0	600,000	435,896
名簿作成積立金	300,000	0	0
幹事会議費	300,000	300,000	85,940
編集会議費	200,000	200,000	90,750
雑費	60,000	60,000	234,221
予備費	30,000	30,000	0
小計	9,240,000	10,040,000	8,331,343
次年度繰越金	1,681,772	1,688,923	2,571,772
合計	10,921,772	11,728,923	10,903,115

特別会計

収入の部

勘定科目	平成8年度予算額	平成7年度予算額	平成7年度決算額
寄付金収入	3,500,000 円	500,000 円	460,472 円
出版収益	300,000	300,000	0
利子収入	100,000	200,000	64,609
雑収入	10,000	10,000	5,356
小計	3,910,000	1,010,000	530,437
前年度繰越金	8,003,435	8,694,610	8,694,610
合計	11,913,435	9,704,610	9,225,047

支出の部

勘定科目	平成8年度予算額	平成7年度予算額	平成7年度決算額
外国人招待	200,000 円	200,000 円	200,000 円
学会奨励賞	300,000	300,000	300,000
組胞バンク委員会	250,000	300,000	300,000
倫理小委員会	100,000	100,000	100,000
細胞工学委員会	200,000	200,000	200,000
教育システム委員会	100,000	100,000	100,000
雑費	50,000	50,000	21,612
小計	1,200,000	1,250,000	1,221,612
次年度繰越金	10,713,435	8,454,610	8,003,435
合計	11,913,435	9,704,610	9,225,047

§ ご挨拶（新会長より）

難波正義（岡山大 医学部・分子細胞医学研究施設・細胞生物部門）

長い伝統のある日本組織培養学会の会長を蔵本教授から、この度、皆様のご推挙により引き継がせていただくことになりました。皆様のご支持に心からお礼申し上げます。また、蔵本教授の4年間にわたる会長のご苦勞に厚く感謝いたします。蔵本前会長が鋭意努力された活発な学会活動を維持し、さらに、今後発展させることの責任の重大さを身に沁みて感じていますので、いろいろのご助言やご指導、さらにご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

昨今、分子生物学的研究が華やかで、細胞生物学的研究が少し湿りがちな風潮があります。組織培養学会も発足当時は最先端のバイオテクノロジーであったろうと予想されます。事実、多くの研究者がこの技術の発展に、また、この技術を使って研究に打ち込んでおられますが、現在では細胞を培養するということが一般化しすぎ、少し魅力にかけることのようにみられています。しかし、ウイルス学は言うにおよばずウイルスワクチンの産生、モノクローナル抗体の作製、細胞融合と細胞遺伝学、オンコジンの発見、細胞増殖促進あるいは抑制因子の発見とその作用機構、インターフェロンの発見とその生産、その他のサイトカインの生産、細胞老化の発見、LDLレセプターの発見とクローニング等々、枚挙にいとまのない数々の重要な研究が、in vitroの細胞で実際に行われています。少し古いことですが、1994年、Jpn. J. Cancer Res.に発表された総論文191編中、培養細胞を何らかのかたちで用いている論文は、48%に達していました。

日本組織培養学会がやや古典的になりつつある危機感もいなめません。蔵本前会長が本年始め、学会の名称、あり方に関するアンケート調査をされました。この結果は、次の会員通信(90号)に掲載予定で、いろいろの貴重なご意見をいただいています。これらの問題にこれからどのように対処すべきか、学会員の皆様、幹事の方々のご相談しながら、やって参りたいと存じますので、何卒よろしくお願いいたします。同時に、大変な宿題を出していただいた会員の皆様と蔵本前会長に厚くお礼申し上げます。

§ 会長を退任して

蔵本博行（北里大学医学部産婦人科）

此の度、日本組織培養学会の会長職を退任させて頂きました。この4年間、何とか曲がりなりにも勤め上げることができたのは、ひとえに会員各位のご協力のお陰と感謝申し上げます。

この4年の間に、第65回（山形、及川胤昭世話人）第66回（つくば、三井洋司世話人）、第67回（岡山、難波正義世話人）、第68回（長崎、渡辺正巳世話人）ならびに第69回（広島、井出利憲世話人）の各大会を盛大裡に開催していただきました。

また、秋季シンポジウムは沖垣 達（倉敷）、高山 奨（西宮）、鈴木文雄（金沢）の各世話人のお世話で、それぞれの専門領域の特徴ある内容で開催されました。昨秋は、性ホルモンに関する国際シンポジウムとして、小生が担当させていただきました。また、細胞工学委員会の活動の一環として、毎年最新のトピックスでシンポジウムが開催されたのも、記憶に新しいところであります。

委員会の活動に関しては、細胞バンク委員会では細胞株のデータベース化が一層充実され、同倫理小委員会（松村外志張小委員長）からは、「組織・細胞培養におけるヒト組織・細胞の取扱いについて」-基本的留意事項の検討-と題して、倫理面に関する中間報告書が纏められました。対外的にも大きな反響を呼んでおります。今後のこの方面における指針となるものと判断されます。社会的重要性にかんがみ、一層の充実をはかるため、本年度から倫理小委員会は委員会に格上げされることが決定されています。

日本組織培養学会の出版活動としては、「組織培養辞典」（編集代表・黒田行昭名誉会長）が平成5年に発行されました。本年には、長年組織培養技法の教科書としての役割を果たしてきた「組織培養の技術」が、（第三版）（丹羽 章・編集委員長）として抜本的に改訂されました。また、昨年の国際シンポジウムの発表内容を「In Vitro Biology of Sex Steroid Hormone Action」のタイトルで、単行本として出版致しました。

また、学会誌「組織培養研究」を原著掲載雑誌として充実させることにし、年四回の発行が平成4年から開始されました。幸い本年度には、文部省から学術定期刊行物の発行費援助を受けることが決定されています。会員各位には、本誌への積極的な投稿が期待されます。「組織培養研究」誌を育てて下さるようお願いいたします。また、会員通信を年四回発行して連絡を密にすると共に、組織培養研究と同時に送付することによって、経費の削減を図りました。

一方、本学会の抱える問題点についても幹事会等で検討いたしました。まず、アメリカ組織培養学会が名称ならびにあり方について検討して参りました。会員から広く意見を聞くことにし、アンケート調査を実施いたしました。その内容は、本会員通信に報告しております。今後の検討の資料にさせていただけたらと存じます。本学会会員の老齢化についても議論されました。若い研究者の参加が急務と判断されます。四カ年間は、長いようで短かったように思われます。学会の名称・あり方など重要な課題を、新会長・難波正義先生や新幹事会に押しつける形でバトンタッチすることとなってしまいました。まことに申し訳なく存じますが、くれぐれもよろしくお願いしたく存じます。

学会の運営に、ご協力下さった同僚の幹事各位ならびに会員の皆様に感謝し、退任のご挨拶とさせていただきます。

§ 「組織培養研究」編集委員会報告

日 時：1996年5月14日（火） 13：00～14：00

場 所：広島市中区加古町3-3

広島厚生年金会館

出席者：岡本哲二、蔵本博行、星 宏良、渡辺正巳、植田政嗣（編集担当幹事）
（敬称略）

- 1.平成7年度学会誌論文掲載状況について報告があった。総説は（1件）、オリジナル論文（9件）、シンポジウム（4件）、研究情報（2件）の16件の投稿があった。オリジナル論文2編が審査の結果不採決となり14件の論文が掲載された。
- 2.学会誌への投稿を増やすために、カレントコンテンツやメドラインなどの文献情報検索サービスに学会誌情報を掲載していただくための調査検討を継続する。
- 3.平成7年度学会誌編集・発行に関する収支決算報告書が了承された
- 4.平成7年度編集委員会の収支決算報告が了承された
- 5.本年度は編集委員会規定に基づき、委員の改正時期にあたっているが、これまでの委員を再選とし、幹事会の推薦を受け、総会の承認を受けることとなった。編集委員長は、星宏良が互選により継続することとなった。編集委員長は、岡本哲二先生にお願いすることを決議し、編集委員会規定に基づき、幹事会で推薦を受け、総会の承認を受けることとなった
- 6.組織培養研究印刷・発行費用の一部として、平成8年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」への申請を文部省に提出した。

（星 宏良）

§ 奨励賞選考報告（難波正義奨励賞選考幹事）

- 1.平成8年度奨励賞に対して、岡山大学医学部の川島邦裕先生の応募（1件のみ）があった
- 2.日本組織培養学会奨励賞選考規定に基づき、幹事会にて審査し、川島邦裕先生の受賞が決定した。

受賞対象：異変p53導入ヒト細胞の放射線感受性の亢進と異変細胞の出現率の増加
（第68回大会発表）

§ 研究教育システム委員会報告

委員長 沖垣 達

1. 図書刊行

一昨年から本委員会が中心となって編集、執筆作業を進めていた以下の図書(編集委員長 丹羽 章会員)が、本年6月に刊行と決まりました。

朝倉書店刊 日本組織培養学会編
[組織培養の技術 第3版]

基礎編 280 ページ 定価 5,974 円

応用編 420 ページ 定価 8,755 円

今回刊行の第3版は、分子生物学、遺伝子操作等新しい実験技法を加え、始めて基礎編、応用編の2分冊とし、より利用範囲の広い技術マニュアルになっています。

日本組織培養学会員には特別割引があり、近々中に朝倉書店から直接案内が届くことになっています。研究、指導用にぜひご利用下さい。

2.その他

a) 企業等から、培養技術に関する実技を含んだ講習会を開いて欲しいという要求がでています。具体的には、会場、講師等の選択の必要がありますので、会員諸氏からのアイデアがあればぜひおきかせ下さい。

b) 本委員会は、平成8、9年度も継続して作業を進めるよう、学会の承認がありました。培養分野に関する研究、教育について、幅広いご助言、ご提案をお寄せ下さい。

§ 第11回日本組織培養学会奨励賞募集要項（平成9年度）

本奨励賞は、昭和60年（1985年）9月、本学会共催のもとに仙台で開催されました第3回国際細胞培養会議(3rd International Cell Culture Congress)の世話をされました山根績会員（現名誉会員）から、運営余剰金500万円を若手研究者の研究を奨励するために寄付いただいたものに基づいて設けられました。本学会ではこれまですでに下記の通り10回、15名の方々に奨励賞を授与しております。

第1回 昭和62年度

菅 幹雄（東北大学・抗菌酸研）

培養器壁に吸着した繊維芽細胞由来因子によるヒト臍帯正常脈内皮細胞の増殖刺激
（第58回大会発表）

第2回 昭和63年度

宮崎 正博（岡山大学・医学部・癌研）

初代無血清培養熟成ラット肝細胞の長期維持の試み
（第60回大会発表）

武富 真子（日本たばこ（株）・中研）

ツバヤ細胞の樹立とその変異原生試験への応用
（第60回大会発表）

第3回 平成元年度

越智 崇文（帝京大学・薬学部）

カドミウム毒性に対する細胞防御因子としてのグルタチオンおよびメタルチオネインに関する研究
（第60回大会発表）

山田 雅保 (重井医学研究所)

腎糸球体上皮細胞株(SCEI)の樹立、培養条件および特性に関する研究

(第61回大会発表)

第4回 平成2年度

鈴木 啓司 (横浜市大・医学部)

ゴールデンハムスター胎児由来細胞におけるX線誘発細胞がん化の多段階性

(第61回大会発表)

第5回 平成3年度

紫沼 質子 (東大・医科研・癌細胞)

活性酸素による細胞増殖制御

(第62回大会発表)

第6回 平成4年度

秦 宏樹 (北里大学・医学部)

Immunocytochemical determinatin of estrogen and progesterone receptors in human endothelial adenocarcinoma cells (Ishikawa cells)

(第63回大会発表)

第7回 平成5年度

鈴木 崇彦 (東大・医学部)

培養心筋細胞による血管収縮ペプチド、エンドセリンの産生

(第65回大会発表)

白 立岩 (岡山大学・医学部)

4-Nitroquinolin 1-oxideによるヒト正常繊維芽細胞の不死化

(第65回大会発表)

第8回 平成6年度

レヌーワダワ (生命工学工業技術研究所)

Molecular mechanism of mortality and immortalization in mouse fibroblasts

(第66回大会発表)

松浦 知和 (慈恵医大・医学部)

培養伊東細胞におけるビタミンA代謝に関する研究 -電顕オートラジオグラフィーを用いて-

(第66回大会発表)

第9回 平成7年度

小池 学 (東大・医科研)

正常ヒト表皮角化細胞の増殖に対するp53およびRBアンチオリゴヌクレオチドの効果

(第66回大会発表)

TGF- β によるSV-40形質転換細胞の増殖制御作用

(第67回大会発表)

安部 まゆみ (大分医科大学)

Transforming Growth Factor- β (TGF- β)の鋭敏な新しい生物学的測定法

(第66回大会発表)

第10回 平成8年度

川島 邦裕 (岡山大学・医学部)

変異P53導入ヒト細胞の放射線感受性の亢進と変異細胞の出現率の増加

(第68回大会発表)

日本組織培養学会奨励賞応募資格

過去3年度内(平成6年度、7年度、8年度)に筆頭者として日本組織培養学会(第67回、68回、69回)で発表された方のうち、学術雑誌に発表された方(第一書写で受理も可)で40歳未満(平成9年4月1日現在)の会員であり、応募時点で会員である若手研究者の授与されます。条件にあった方は自薦、他薦いずれでも結構ですので、別紙推薦書を添付の上、ふるって応募されますようにご案内申し上げます。

メ切期限は、平成8年9月30日とします(当日消印有効)

なお、昨年度の総会において選考規定が改訂されています(日本組織培養学会奨励賞選考規定参照)。

例年、ご推薦が少なく、選考委員会では多数の方々のご推薦を期待いたしておりますので、該当される若手研究者をふるってご推薦(自薦も可)下さい。

なお、推薦にあたっては以下の書類、論文別刷りを下記宛先までご送付ください。

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| 1) 推薦・自薦書(本要項次項) | 1通 |
| 2) 内容要旨(400字詰B5版原稿用紙2枚以内) | 1通 |
| 3) 推薦状(自薦可) | 1通 |
| 4) 履歴書(B5版) | 1通 |
| 5) 発表論文のコピー(別刷りまたはin pressの場合は原稿) | 15通 |

書類送付先：〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部放射線研究施設

鈴木崇彦 宛 TEL/FAX 03-5800-6849 E-mail tsuziki@m.u-tokyo.ac.jp

※(奨励賞選考幹事：難波正義、鈴木崇彦)

なお、封筒の表に、「日本組織培養学会奨励賞選考書類」と明記願います。

日本組織培養学会奨励賞選考規定

第1条 名称：日本組織培養学会奨励賞と称する。

第2条 目的：将来性ある有能な若手研究者の研究を奨励し本学会の活性化を図る。

第3条 受賞対象：本学会で発表され(形式不問)、学術雑誌(邦文、欧文双方とも

可)に掲載された論文(受理論文可)の第1筆者であって、当該会計年度の4月1日現在で40歳未満の会員で、応募時点で会員であること。原則として毎年1~2名に授与される。

第4条 発表期限:過去3年度内に本学会で発表されたものに限る。

第5条 応募方法:論文別冊もしくは受理論文の原稿コピー15部、また内容要旨(400字詰原稿用紙2枚以内)、推薦状(自薦可)ならびに履歴書各1通を幹事会(奨励賞選考幹事)に提出する。なお応募期限は毎年前年度の9月30日までとする。(消印有効)

第6条 選考:別記細則により幹事会で審査、決定する。

第7条 表彰:本学会の総会時に会長が発表し、症状ならびに副賞(30万)を贈る。受賞者が多数の場合は副賞を分割することになる。

第8条 改訂:幹事会を経て総会で行う。

附則:本選考規定は昭和62年度から実施し、初年度は特例として63年度と併せて表彰する

細則:第1条:審議の上無記名投票により受賞者を決定する

第2条:投票は会長、幹事8名、指名幹事(会計、庶務各1名)2名および当該研究発表時の座長で行う。

第3条:幹事及び座長が候補者である場合は投票できないものとする。

§ 平成8年度第10回組織培養学会奨励賞を受賞して

川島 邦裕(岡山大学医学部。分子細胞研・細胞生物)

この度はこのような榮譽ある賞を頂き、誠にありがとうございました。藤本学会長はじめ学会の先生方に心よりお礼申し上げます。諸先生方をさしおいて私のような若輩者が受賞させていただくことには、非常に恐縮で、いささか分不相応の感がいたしております。しかし、これも日頃地道にこつこつと細胞と顔を突き合わせていることに対してのひとつのご褒美だと思って素直にお受けしたいと思っております。

現在分子細胞医学の分野では、癌制御遺伝子の一つであるp53は、最も広く研究されているものの一つであります。今回の実験は、この遺伝子が細胞の癌化にどのように働くのか、あるいは、多段階的発癌過程のなかでどのような役割を担うのかについて明らかにするために行いました。方法は、不死化したヒト繊維芽細胞にmutant typeのp53遺伝子を導入し、X線感受性の増加と変異細胞の出現率の増加がみられました。また、変異細胞の出現率はX線を細胞に照射することによってさらに増加しました。しかし、mutant p53を導入するのみでは、細胞を癌化することはできませんでした。以下より、p53のmutationは細胞の変異を起しやすくさせる、すなわち細胞の遺伝子の不安定性を

増加させる作用があり、これが直接的、間接的に細胞の癌化に結びついていると結論しました。

今回の実験結果はp53遺伝子の働きを解明するうえで、一つの事実を示したと思いますが、もちろんこれはごくごくわずかなものにすぎません。p53遺伝子は細胞の癌化の過程において非常に興味深いものであり、今後ますます研究が進められていくものと思われます。今回の受賞を励みとして、いっそうの努力を致したいと思っております。ありがとうございました。

日本組織培養学会会長 殿

下記の若手研究者を日本組織培養学会奨励賞に推薦いたします。

氏 名：

生年月日：

所 属：

住 所：

電 話：

本学会での発表

年 月 日：

演 題 名：

発表者氏名：（全員記入のこと）

発表論文：（論文名：著者、題名、雑誌名、巻、号、ページ、年）

推薦理由：（別紙の場合はB 5版400字詰め原稿用紙2枚以内）

平成 年 月 日

推薦者氏名：

所属・現職：

住 所：

（自薦の場合は本人の所属、氏名）

*本用紙をコピーしてお使い下さい。